

第2章 研究活動

2-1 平成30年度活動スケジュール

2-1-1 国内会議

- 平成30年電子通信エネルギー技術研究会(EE) …………… 2018年7月
- 平成30年高速信号処理応用技術学会研究会 …………… 2018年8月
- 2018年(第36回)電気設備学会全国大会 …………… 2018年9月
- 平成30年度電気学会 電力・エネルギー部門大会 …………… 2018年9月
- 平成30年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 …………… 2018年9月
- 電力技術・電力系統技術合同研究会 …………… 2018年9月
- 放電/開閉保護/高電圧合同研究会 …………… 2018年11月
- 平成30年度JSEE・JWEA合同研究発表会(日本太陽エネルギー学会) 2018年11月
- 平成31年電気学会全国大会 …………… 2019年3月

2-1-2 国際会議

- GRE2018 (Grand Renewable Energy) …………… 2018年6月
- ICEE2018 (International Conference on Electrical Engineering) …………… 2018年6月
- EVS31&EVTeC2018 …………… 2018年9月
The 31st International Electric Vehicles Symposium & Exhibition (EVS 31) & International Electric Vehicle Technology Conference
- IFAC CPES2018 …………… 2018年9月
(International federation of automatic control the 10th symposium on control of power and energy systems)
- ICGDTA2018 …………… 2018年9月
(International Conference on Gas Discharges and Their Applications)
- INTELEC2018(International Telecommunications Energy Conference) 2018年10月
- ICRERA2018 …………… 2018年10月
(International Conference on Renewable Energy Research and Applications)
- IWHV2018 …………… 2018年11月
(International Workshop on High Voltage Engineering)
- INCSG 2018 …………… 2018年12月
(International Conference On Smart Grid)

○ 平成 30 年度電気学会 電力・エネルギー部門大会
 会 期 2018 年 9 月 12 日～14 日
 会 場 徳島県 徳島大学 常三島キャンパス
 主 催 電気学会 電力・エネルギー部門

平成30年電気学会 電力・エネルギー部門大会
 会 期 2018年9月12日(水)～14日(金)
 会 場 徳島大学 常三島キャンパス

分権配置された太陽光発電装置の運転電圧の決定方法
 平島 健二 徳島大 平島 健二 徳島大 加藤 正樹* 徳島大 佐藤 謙之* 徳島大
 三島 悠弘* 三島 悠弘 徳島大 三島 悠弘 徳島大 佐藤 謙之* 徳島大 佐藤 謙之*

Method of Determining Operating Voltage of Dispersed Photovoltaic Generator
 Shunsuke Hira*, Shunsuke Hira*, Shunsuke Hira*, Shunsuke Hira*, Shunsuke Hira*,
 Takahiro Goto*, Takahiro Goto*, Takahiro Goto*, Takahiro Goto*, Takahiro Goto*,
 Member, Member, Member, Member, Member, Takayuki Sato*, Takayuki Sato*,
 Member, Member, Member, Member, Member

キーワード: 太陽電池, 電圧制御, 分散電源
 Keywords: Photovoltaic power, Voltage control, Dispersed power

1. 研究背景
 太陽電池の出力は日照量と温度に依存し、安定な出力を確保するためには電圧制御が不可欠である。近年、太陽電池の出力変動が激しくなる傾向があり、電圧制御の重要性が増している。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。

2. 電力系統のモデル
 電力系統のモデルとして、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。

3. 運転電圧の決定方法
 運転電圧の決定方法として、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。

分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御に関する論文の図表と数式。図1は電力系統のモデルを示し、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。図2は電圧の変遷を示し、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。図3は電圧の決定方法を示し、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。

Fig. 1 Model system
 Fig. 2 Voltage variation
 Fig. 3 Voltage determination method

Table 1. System parameters
 Table 2. Simulation results

参考文献
 [1] 平島 健二, 加藤 正樹, 佐藤 謙之, 三島 悠弘, 徳島大, 2017, 分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。

○ 電力技術・電力系統技術合同研究会
 会 期 2018 年 9 月 26 日～27 日
 会 場 愛知県 名古屋工業大学
 主 催 電力技術委員会・電力系統技術委員会

一般社団法人電気学会
 The Institute of Electrical Engineers of Japan

電力技術・電力系統技術合同研究会
 (1)電力技術・電力系統技術合同研究会 (2)分散電源・次世代グリッド
 一般社団法人 徳島大学 常三島キャンパス
 〒770-8506 徳島県徳島市常三島1-11-1 2F 202号室

分散型電源の余剰電力を考慮した
 マイクログリッドの運用に関する検討
 大島 大輝* 野田 和人 松村 祐希 佐藤 謙之 (愛知工業大学)
 Study on operation method of micro-grid considering resources against DC/AC
 Daiki Oshima*, Kazuo Noda*, Yusuke Matsura, Takayuki Sato (Aichi Institute of Technology)

This study considers the operation method of power storage device considering surplus power of PV. It is power to be stored after the end of the load in the grid. Therefore, in order not to generate surplus power of the PV in the late time in which the load power is the smallest, it is necessary to consider the charge amount to the power storage device to supply. Since the power storage device is also used for DC/AC conversion, operation was performed considering the DC/AC of the power storage device. As a result, in this examination method, it was possible to operate without using the DC/AC flow the target value.

キーワード: 分散電源, 蓄電池, DC/AC変換, マイクログリッド, DC/AC
 (Controlled power supply, Power storage device, DC/AC converter, Microgrid, DC/AC)

1. 研究背景
 近年、再生可能エネルギーの活用が進んでいる。その中で、太陽電池の出力変動が激しくなる傾向があり、電圧制御の重要性が増している。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。

2. 電力系統のモデル
 電力系統のモデルとして、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。

3. 運転電圧の決定方法
 運転電圧の決定方法として、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。分散電源を有する太陽電池発電装置は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散電源を有する太陽電池発電装置の電圧制御方法について検討する。

分散型電源の余剰電力を考慮したマイクログリッドの運用に関する検討の図表と数式。図1はシステムモデルを示し、分散型電源の余剰電力を考慮したマイクログリッドの運用に関する検討について検討する。図2は電圧の変遷を示し、分散型電源の余剰電力を考慮したマイクログリッドの運用に関する検討について検討する。図3は電圧の決定方法を示し、分散型電源の余剰電力を考慮したマイクログリッドの運用に関する検討について検討する。

Fig. 1 System model
 Fig. 2 Voltage variation
 Fig. 3 Voltage determination method

Table 1. System parameters
 Table 2. Simulation results

参考文献
 [1] 大島 大輝, 野田 和人, 松村 祐希, 佐藤 謙之, 愛知工業大学, 2018, 分散型電源の余剰電力を考慮したマイクログリッドの運用に関する検討について検討する。分散型電源の余剰電力を考慮したマイクログリッドの運用に関する検討は、太陽電池の出力変動に応じて電圧を自動的に調整する必要がある。本論文では、分散型電源の余剰電力を考慮したマイクログリッドの運用に関する検討について検討する。

○ 平成 30 年電気学会全国大会
 会 期 2019 年 3 月 12 日～14 日
 会 場 北海道 北海道科学大学
 主 催 電気学会



北海道科学大学マスコットキャラクター「ゾウゾウ」, © NEW STANDards

2019年3月12日 ~ 2019年3月14日

開催地・会場: 北海道 北海道科学大学

○ GRE2018 (Grand Renewable Energy)
 会 期 2018 年 6 月 17 日～22 日
 会 場 PACIFICO YOKOHAMA
 主 催 GRE

グランド再生可能エネルギー 2018 国際会議
 2018年6月17日(日) - 6月22日(金) パシフィコ横浜

スポンサー
 Sponsors Opportunities

We are proud to present the good sponsors opportunities available for the Grand Renewable Energy 2018 International Conference, to be held in Yokohama, Japan, from June 17 to 22. Bringing together Grand Renewable Energy experts, researchers and industry leaders all over the world, the GRE2018 is a premier opportunity to showcase your industry in this opportunity creating market.

We encourage you to take advantage of the promotional opportunities associated with this international conference by becoming a good sponsor or one of the conference's exhibitors. Please contact the GRE2018 secretariat gre@2018.convention.co.jp to reserve goods. Supplier opportunity or discuss it suitable for your organization. Also, please let us inform from many levels of the goods you would like to supply.

We thank you for your interest in the GRE2018 International Conference. We look forward to working with you.

開催地
 (1) Conference flag
 (2) Program book
 (3) SIMP
 (4) Pen
 (5) Note

Above goods are prepared to the number of participants, supporting 1,500.

ANC

(6) Personal Computers used during the conference
 About 30 PCs used.

Prize for Sponsors
 Name and logo are provided in the most convenient and equal way after taking each other. Also, we will consider to publish the international conference free dependent on the supply.

XTG Nippon Oil & Energy Corporation
 Pen, Notebook and Clear folders will be provided.

XTG Nippon Oil & Energy Corporation

Okuji Kansai Corporation
 Conference Bags are supported by Okuji Kansai Corporation
 Answer A4 size folder

OKUJI

低圧直流送電時における
 アークコラム抵抗に関する検討

長谷川 知帆*, 伊藤 悠樹, 梶村 年樹, 雪田 和人, 阪野 謙之(東芝工業大学)
 宮本 淳史, 伊藤 裕幸(住友工業株式会社), 橋本 康伸(名古屋大学)

A study on Thermal Behavior of Arc Column Resistance Low Voltage DC Air Interruption
 Kenichi Hasegawa, Shigeru Ito, Takashi Mizumoto, Kazuo Takai, Yusuke Usui (Osaka Institute of Technology), Masahito Miyamoto and Hisayuki Ito (Sumitomo Corporation), Yasuyuki Yokoyama (Nagoya University)

1. 要旨
 低圧直流送電時におけるアーク抵抗に関する検討。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク電圧はアーク電流に比例し、アーク電流はアーク電圧に反比例する。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。

2. 論文の目的
 アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。

3. 論文の方法
 アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。

4. 論文の結果
 アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。

5. 論文の結論
 アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。アーク抵抗はアーク電圧とアーク電流の積として定義される。

Fig. 1. Arc voltage and arc current characteristics.
 Fig. 2. Arc resistance characteristics.
 Fig. 3. Arc resistance characteristics.
 Fig. 4. Arc resistance characteristics.

Study of power interusage using UPFC in case of power system failure

Daiki Ochi*, Kazuo Yukita*, Tohru Matsunaga* and Tetsuya Ochi*

Yokai Institute of Technology, 4700262, Japan

This study investigates the system operation and quality of load in case of power system failure while using power interusage (PI) and power interusage (PI) between independent investors in the same area. The study reports the system operation and quality of load in case of power system failure while using power interusage (PI) and power interusage (PI) between independent investors in the same area.

Keywords: distributed power supply, power system fault, power interusage, UPFC

INTRODUCTION
 In recent years, global environmental issues such as global warming and air pollution, water resources, have become serious. The study reports the system operation and quality of load in case of power system failure while using power interusage (PI) and power interusage (PI) between independent investors in the same area.

Fig. 1. Configuration of UPFC

Fig. 2. Flowchart

Fig. 3. System model

Fig. 4. State transition

Fig. 5. UPFC operation

